台湾台中市との青年海外交流事業

市では、平成 28 年に青森県とともに台湾台中市と友好交流協定を締結しています。締結 10 周年を迎える令和 8 年から新たに台中市の大学生と交流する「青年海外交流事業」を始めました。３月３日から７日までの５日間、台中市を訪れて、台中市にある東海大学の学生と交流してきました。東海大学での AI 講義や台中市政府への表敬訪問等に参加してきました。今回参加した方の感想をご紹介します。

津川　佳子さん

今回の交流事業は、本当に忘れられない５日間になりました。何より心に残っているのは、一緒に過ごした東海大学の学生さんたちの存在です。バイクが行き交う慣れない土地で私たちが事故なく、安全に過ごせるようにと、常に細やかな気配りをしてくれました。私たちの希望を叶えようとしてくれた「おもてなし」の心には本当に感謝しかありません。彼らのおかげで、充実したスケジュールを最後まで楽しむことができました。

また、今回の旅では歴史についても深く考えさせられる場面がありました。かつて日本が統治していたという歴史背景がある中で、今の台湾の方々が私たち日本人をどう見ているのかを、現地で直接お話を伺うことで、教科書だけでは分からないリアルな思いに触れることができました。今の私たちを友人として温かく受け入れてくれるその優しさに触れ、台湾という国、人々が大好きになりました。

今回の交流事業を通して、小中学校の頃から台湾の歴史、文化、言語を習ってみたかったと思いました。小さい頃から台湾を身近に感じることができ、長期的な交流に繋がると思いました。この５日間で得た経験や、学生さんたちとの絆は、私にとって大きな財産です。この旅を通して感じた感謝の気持ちを忘れずに、台湾で出会った方々との出会いを大切にしていきたいです。

葛西　香乃さん

今回の事業を通して、日本と台湾との「信仰や文化の根底にある姿勢」の違いを一番に体感しました。日本の伝統行事、例えばねぶた祭には、自然災害に対するおそれが根底にあり、「どうか待ってほしい」「悪いものを外へ流したい」という祈りが込められています。また、国家的な祝日よりも地域の祭りの方に強い高揚感を覚えるのは、こうした行事が長い時間をかけて地域の生活と結びつき、「暮らしを守るための儀式」として受け継がれてきたからだと思います。一方で、台湾の文化は、国家的な祝日を重んじ、「福を招く」という前向きで力強い姿勢を感じました。旧正月は家族の絆を確かめ合い、新しい一年の運気を大きく引き寄せる場であり、守られるのではなく自ら運を掴みにいく姿勢が特徴的で、日本の「静」や「払う」文化とは対照的だと気付きました。台湾の若者は、何らかのキャラクターのストラップをつけている方が多かったです。海を越えても人はキャラクターを好む文化がありました。平川市にもたくさんのゆるキャラがあるため、ゆるキャラを通した平川市の周知活動をもっと行うことで、人々の平川市への興味関心が高まっていくと思いました。

今回の事業を通して、日本にはない文化を知ることが興味深かったです。そして、知った後に改めて地元の伝統行事を見つめ直すと、「なぜ私たちはこれを大切にしているのか」という点で解像度も上がり、非常に貴重な体験でした。

小森 香好さん

今回の交流事業を通して、実際に現地を訪れ、人と関わりながら体験することの大切さを実感しました。事前に持っていたイメージだけでは分からない、街並みや食文化、生活の細かな違いに触れることで、その土地への理解がより立体的に深まっていく感覚がありました。私は今回、平川市の「当たり前」をミクロに問い直すという目標を持って参加しましたが、多くの気づきを得ると同時に、自分の住む平川市をこれまで以上に好きになったと感じました。帰国後、平川市に戻った際、ふとした瞬間に「この町の匂い」を強く感じたことが印象に残っています。一方で、台中市での経験も非常に印象的であり、今後台湾提灯を見るたびに、街並みや鮮やかな夜市の光景、人々の雰囲気、交流した学生の顔が思い浮かぶのではないかと思います。このように、文化や風景の記憶は、人との関わりと結びつくことでより強く心に残るものであると感じました。だからこそ、平川市においても、単に場所を訪れるだけでなく「町の人の顔が思い浮かぶ」ような関係性を感じられる観光や体験のあり方が重要になるのではないかと考えました。

また、今回の交流ではアクティビティを通して自然に関係が生まれていく様子も印象的であり、体験を共有することの持つ力を実感しました。今回の経験で得た視点を、今後の地域との関わりや活動に活かしていきたいと思います。

一戸 唯華さん

今回の交流事業を通して、台湾の生活や食文化、歴史的な建造物など多くのことを学ぶことができました。現地の学生と一緒に観光地や学校を訪れ、文化や歴史について話を聞く中で、台湾の街並みや生活様式、考え方の違いを肌で感じることができたのは貴重な経験でした。また言葉や文化の違いがあっても共通の話題で盛り上がることができ、自分自身の語学力も少し自信を持てるようになりました。英語だけでなく簡単な中国語で意思疎通を図れた経験は、今後の仕事や海外を訪れる時に活かせるものだと感じています。さらに、帰国後も SNS を通じて現地の学生と交流を続けられることで、継続的に台湾の生活を知ることができ、現地の学生にまた会いに行きたいと思うきっかけにもなりました。こうした点もこの交流事業の大きな魅力だと感じています。台湾は夜市が有名で、日常的に人が集まっています。平川市でも定期的に夜にお酒を楽しめる屋台や地元特産品を販売することで、若い世代に地域の魅力を体験できる場を提供していけば良いと思いました。

今回の経験を通して、異文化を理解し尊重することの大切さや、異なる価値観を持つ人々と協力して交流する楽しさを実感しました。今後もこうした交流の機会を活かし、自分自身の視野を広げるとともに、平川市と台中市の若者が互いに学び合い、文化を共有できる関係を続けていきたいと考えています。

土岐 穂乃花さん

今回の国際交流を通して、最も強く感じたのは、現地の学生と直接関わることの楽しさと大切さです。観光ではなかなか得ることのできない経験だったなと感じました。リアルな文化や生活、その人のひととなりを知ることができ、非常に貴重な経験となりました。特に同世代の学生との交流では、言語や文化の違いを感じながらも、お互いに理解しようとする姿勢によって自然と距離が縮まり、短い時間でも深い関係を築くことができました。また自分の視野を大きく広げる経験になったと思います。異なる環境で育った人たちの話を聞き、現地の歴史や食文化、生活環境に触れたことも印象に残っています。実際にその土地で過ごすことで、教科書やインターネットでは分からないリアルな一面を知ることができました。新しい考え方や物の見方を学ぶことができ、自分自身の成長にもつながったと思います。今回の交流は、楽しい思い出であることはもちろん、それ以上に今後の学びや将来に大きくつながる貴重な経験であったと思います。東海大学にはたくさんの留学生がいたため、平川市在住の方が留学しやすい制度があれば良いと思いました。

この経験を大切にし、これからも積極的に異なる文化に触れ、自分の視野を広げ続けていきたいです。

台中市をご紹介！

台中市は、台湾中部に位置する都市で、人口規模は約 286 万人です。台湾中部の経済の中心都市で、世界的に有名な自転車メーカー GIANT やタピオカミルクティー発祥の店といわれる春水堂など、多くの企業本社が集積しています。